

## 第1回 吹田市総合計画審議会・第3部会 議事要旨

■日 時：令和5年（2023年）1月16日（月） 18:05～19:13

■場 所：オンライン開催（事務局は中層棟4階 第4委員会室）

■出席者：別紙「出席状況一覧」のとおり

■傍聴人：なし

■資料：

資料1 吹田市総合計画審議会委員名簿

資料2 第4次総合計画見直し 策定スケジュール・本日の到達点

資料3 市民参画・周知の取組報告

資料4 第4次総合計画基本計画改訂版素案

資料5 第4次総合計画基本計画改訂版素案新旧対照表  
（第1回審議会時点・第1回部会時点）

■議事要旨

### 1. 定足確認

### 2. 部会長就任の報告（資料1）

吹田市総合計画審議会規則第7条第3項に「部会に部会長を置き、会長が指名する委員をもって充てる。」と定められていることから、資料1にも記載のとおり、北村会長に部会長をお願いすることを報告。

### 3. 案件

【報告】（1）～（2）ア、イ、ウ（資料2、3）

事務局：（資料説明）

部会員：（意見等なし）

【議題】（1）第4次総合計画改訂版素案 ア 財政運営の基本方針（資料4、5）

事務局：（資料説明）

A 委員：

図表Ⅱ-3 のグラフの凡例が見づらい。歳入の一番大きな項目が何なのか分からない。また、歳出についても一番大きなところは何を示しているのか。

事務局：

歳入の一番大きな水色で示す項目は市税に当たるが、凡例が消えてしまっている。歳出の中で一番大きな項目はその他で、一番下のグレーで示す項目は扶助費に当たる。

A 委員：

いずれにしても凡例が小さく見えづらいため何とかならないか。

事務局：

見やすくなるよう修正をさせていただく。

B 委員：

財政調整基金について1点教えてほしい。標準財政規模に対し20%ということで、額面ではなく割合としているのはとてもよいと思う。問題は20%としている根拠である。経済状況の変化による収入の減少や不測の事態に対してという部分が理由に当たると思うが、こういったものはなかなか目標値を定めづらいところがある。そういった視点から、なぜ20%なのか根拠を教えていただきたい。

事務局：

平成28年度以降における財政調整基金の残高は100億円から130億円程度となっている。標準財政規模に対する割合としては15%から18%程度となっており、平成30年度の台風や地震の災害対応、新型コロナウイルス感染症の対応などの臨時的な財政需要に、柔軟に対応するための財源として、この基金の重要性が高まっているため、15%から18%より少し高めめの20%を確保することとさせていただいている。

B 委員：

現状を踏まえた上で、1%から2%を上乗せするという点については、分かりやすい説明と理解する。ただ、お金には色がなく、地方税、地方交付税、場合によっては基金を取り崩して対応することも可能であり、公債費比率10%以下ということで、赤字地方債は発行しないでいくという姿勢はよく分かるが、財政調整基金で対応すること、20%が妥当なのかどうかは更に検討いただきたい。

事務局：

この点については庁内でも議論があり、決算としてどれくらい取り崩すかも当然、考慮している。当初予算の財源不足を補填するという意味もあり、最適な残高を持っておきたいと考えている。先ほどの説明にもあったが、これまでの経過を踏まえ、この程度は持つておきたいということと、コロナ対応等で思いのほか財政調整基金を活用した事例もあり、20%を目標値としたいと考えているが、また御議論をお願いしたい。

C 委員：

歳出の見通しについて、普通建設事業の見通しや今後の扶助費の見通しを立てる際には、中核市移行の影響を概ね反映できているということか。

事務局：

中核市の影響については、保健所等の経費などを含み、全て計算し直している。数字については最新の数値にまた置き換えをさせていただくが、現状の推計値においても中核市の影響は全て考慮した上で推計している。

【議題】(1) 第4次総合計画改訂版素案 イ 大綱8 行政経営(資料4、5)

事務局：(資料説明)

A 委員：

政策1の現状と課題、3段落目の「中核市への移行に伴い」から始まる文章について、何が書かれているのかよく分からない。文章が長く、文と文の関係もよく分からない。「PDCAサイクルのもと、SDGsを見据えながら」とあるが、何の話をしているのか。

事務局：

様々な分野の項目を羅列しているという印象を持たれてしまったのかと思うが、確かに御指摘のとおりかと思う。そういった意見があったことを所管室課にも伝え、読みやすい文章表現になるよう検討したい。

A 委員：

無理矢理キーワードを入れているようにも見える。

次に、これは間違いではないが、次の段落に「DXを推進することで」とある点について、あくまで市民の利便性の向上を図ることが目的であると思うため、「市民の利便性の向上を図るためにDXを推進する。」というような書き方の工夫はできないか。同じことを言っているが、DXが目的であるかのように見える。

事務局：

御意見として所管室課に伝えたい。

A 委員：

2 ページ目の施策指標 8-1-4 に、ICT を活用した行政サービスの稼働休止時間の目標が 0 分とあるが、通常で考えて、ゼロという目標の設定はあり得ない。一般的には稼働率何% という言い方をすると思うが、システムトラブルが当然起きるという前提で考えると、ゼロというのはあり得ないのではないか。

事務局：

0 分にすべしというあるべき論でこのような目標を掲げていると思うが、表現の仕方や実態に即した目標にするのかなどは御意見を所管室課に伝え検討したい。

A 委員：

0 分という書き方はシステムについて分かっていないということを露呈しているように思う。

施策 8-1-4 で、「情報セキュリティの脅威に対応するため、情報システムの強化を図ります。」とあるが、具体的に見据えているものはあるか。

事務局：

具体的にどういう施策を示しているのかについて、所管室課に確認の上、次回、回答させていただきたい。

A 委員：

明確に変えるべき点があるのであればこういう書き方でもよいが、現時点でもセキュリティをケアしたシステムとなっていると思うため、セキュリティ対策で最も大事なものは職員の啓発であり、そちらの方がよほど大事ではないか。

事務局：

所管室課に伝え、表現等について検討したい。

部会長：

A 委員が指摘されたところについては、まさにそのとおりだと思う。新しく追加された部分については、何を言わんとするのか、何のために追加したのかがよく分からない。よほどのことでなければ追加しないぐらいのことでなければ、全く別の新たな総合計画になってしまうような印象を持つ。各部局から修正案が出てくると思うが、事務局の方でしっかり管

理していただきたい。決まった指標で経年評価していくことを基本とし、中核市やコロナ、新しいテクノロジー導入等の新たな要素が加わり修正や追加が必要となった部分は別として、全て必要な要素を入れてしまうというのはあまりよくないと思う。新しく追加された部分については、今一度整理をしていただけないか。

事務局：

現状と課題についてはいろいろと詰め込んだ結果、文章として精査されておらず、施策、施策指標も含めて、現状に合わせるだけではない理由で見直している部分があるのではないかという指摘かと思う。大綱8以外も含めて、本当に必要な見直しなのか、確認して進めていきたい。

部会長：

まだ決定稿というわけではないので、もう少し議論をいただきたい。また、次回の部会の際に、新しく追加された施策指標等については、なぜ追加したのか理由の準備を事務局の方でお願いしたい。正解というものはなく、正解を求めているわけでもないが、新しく追加するというものについては、理由をぜひ教えていただきたい。

B委員：

見直しの立場で資料を拝見しているが、そういう認識で誤りはないか。

事務局：

今回の改訂は、中間年度の見直しとなる。

B委員：

そうであれば、吹田市にとって策定時には見落としていた、もしくは今のような状況を想定していなかったため、新たな施策指標を追加せざるを得ないということであると思う。であるならば、一般論ではなく吹田市ならではの問題点、課題がある中での修正となるべきである。今、示されている改訂案は、修正箇所が全体の多くを占めていて、策定時のものではなくなくなってしまっている。何らかの問題が生じているのであれば、現状の文言の中にそれらを書き入れていただかないと、なぜこれだけ抜本的に修正が入るのが分からない。

我々は見直しをするためにこの案件を扱っている状況にも関わらず、抜本的に一から作り変えているような印象を受けている。なぜ施策指標を変更する必要があるのかという各委員からの指摘に対し、新たなキーワードを入れたなどと説明があったが、そのキーワードは吹田市ならではの問題なのか。再検討するときには吹田市の視点だけは見逃さないようにお願いしたい。

事務局：

大綱8以外も含めて、全体的に今回の見直しをどう捉えているのかという御指摘をいただいていると思う。第1回審議会で示した、市として政策会議で決定した見直しの方針に則り、コロナや中核市への移行という点を踏まえて見直し、修正するというのがまずは基本だと思う。それ以外の視点で抜本的に見直そうとしている点がないか、吹田市の課題ではない部分も反映されているのではないかとこの点も踏まえ、全体的に見直しをし過ぎている部分がないかも含めて、改めて事務局でも確認したいと思う。

また、部会長からあった、今回なぜ施策指標を見直したのか、なぜ新しい施策指標を設定したのかの理由の整理については、次回の部会で示していきたいと思う。今回、見直しをしていく中で、コロナ禍で施策指標の達成が難しいのではないかと、来館者数や人を集めるといった施策については、他の実施の仕方について検討したものもあり、そういった施策については施策指標を補足する、または他に進捗を測るふさわしい施策指標があるのではないかとこの視点で見直しを行っている部分がある。

全体的に、3年を経て進行や進捗が芳しくないものなどは見直しを行っている。施策指標を80ほど現行計画で設定しているが、その半数以上が何らかの見直しを行っている現状である。本日、部会でいただいた御意見を踏まえ、事務局から理由も示しながら、その施策指標の見直しが必要かどうか、もう一度整理していきたい。

部会長：

施策指標を変更するべきではないと言っているわけではなく、その後の状況で変わったことも含めて、理由が整理できることが大事である。達成できないから指標を変える、芳しくないのもっとよいものに変更してしまうと、時系列の評価も難しくなる。達成できないのであればその理由をきちんと説明できればよいだけである。その説明がないと、むしろ策定時にもっとたくさん施策指標を出してくれれば、こんなことにならなかったのではと思わないでもないが、その点についてはもう言わない。新しく指標を入れるのであれば、明確な理由を示していただきたいということである。

C委員：

皆さんから施策指標についていろいろと指摘があったが、変更の数が多いことについて、時系列を追えない理由としては、策定時の値が「－」となっているものが多いというのが一つあるかと思う。どうしても変えなくてはいけない場合は、例えば括弧書きであっても策定時の値がこれくらいだったということが示せれば、変更した場合も策定時からの時系列で3年、10年と見えてくるのではないかと。もし、策定時の値として示すことができるのであれば、「－」で隠すのではなく、見せていくこともできるのではないかとこの点も思う。

A 委員：

施策 8-1-4 の ICT の利活用のところで、自治体 DX の推進を図るとあるが、具体的に何を想定しているのか。事例としてペーパーレスやキャッシュレスなどが上がっているが、利便性の向上という点では、市役所まで来なくてもオンラインで申請や施設の予約等ができるというのが利便性の向上であるという認識であり、これらが一番やらなくてはいけないことだと思っているが、その認識で合っているか。

事務局：

総合計画という特性上、限られた文言の中で施策をどのように見せるかについては、今いただいた御意見も含めて所管室課に伝え検討したい。

A 委員：

キャッシュレスという言葉が気になっており、何を想定しているのかがよく分からない。非接触型の決済サービスなどのレベルの話なのか、暗号資産などブロックチェーン系統の話なのか、それら全体を含むのか。

事務局：

キャッシュレスについては、電子マネーやクレジットカードの活用による支払方法の多様化と入金事務の簡素化、業務プロセスの改善という両軸で考えている。

A 委員：

暗号資産のようなデジタルキャッシュが対象となると、随分状況が違うと思う。キャッシュレスという言葉がいまひとつよく分からない。

部会長：

この場合の自治体の DX とは、市民の皆さんの生活というよりは、あくまで行政との関係、手続の面を想定しているかと思う。例えば、税金や手数料の収納、行政手続のペーパーレス化など、お金を振り込む、窓口へ持っていくという手間をなくすというようなことに取り組むというような内容を簡潔にまとめていただき、御指摘があった部分を明らかにしていただければと思う。難しいかと思うが事務局で一度検討いただけないか。

事務局：

いただいた御意見を基に検討させていただきたい。

部会長：

今の点と関係するかもしれないが、分野ごとの細かい計画も当然あり、それらとの関係で、

どこまで総合計画に書き込むかもしっかり検討いただきたい。総合計画の本文に突出した内容を盛り込むのはどうかと思う。吹田市で取り組む ICT の活用、DX の推進とはどういうものか一目で分かる文言を、また全体的な進捗状況が分かるような施策指標を入れていただき、詳細は各分野の個別計画を確認してくださいという体裁に吹田市の総合計画はなっている。そのようなことを常に意識してほしい。

A 委員：

市民の利便性という意味でのオンライン申請等を進めるのがより重要だと思う。特にマイナンバーカードが普及しつつあり、普及が進めば一挙にオンラインであらゆることができるようになる。8-1-4 にある施策指標、オンライン申請の件数も、急激に増えるかと思う。令和 10 年であれば、想定よりもっと多くのものがオンライン化すると思うし、むしろしなくてはならない。その辺りも検討に含めていただきたい。

事務局：

御意見を基に施策指標の目標値についても検討していきたい。

C 委員：

施策 8-1-3 の人材育成の推進と 2 つの施策指標との関連性について、2 つ目の施策指標の時間外勤務時間を少なくするという部分はワーク・ライフ・バランスの実現と関連性が分かりやすい。

しかし、もう一方の実務基礎能力については、財務処理など基礎的な実務能力とのことであり、基礎能力習熟度テストの正答率が上がったからといって、「適切かつ柔軟に対応できる職員の育成」という人材育成の方向性との関係性が弱いのではないか。人事評価制度につながるということであればこれが施策指標であってもよいと思うが、関係性が弱い施策指標もあるのではないかと全体を見ていて感じた。特に 8-1-3 についてはそう感じたため、実際の関係性はどうか教えてほしい。

事務局：

詳細については所管室課より次回、回答をさせていただきたいが、確かに 8-1-3 の施策では人材育成と広く書いている。一方、施策指標については、まずは基礎的な能力がなければ吹田市がめざす人材に結び付かないということで、基礎的な能力の達成度を測る施策指標ということで新たに追加した。御意見を踏まえてもう少しつながりが明瞭になるように、指標を変えるかを含め検討をさせていただきたい。

B 委員：

同じように 8-1-1、8-1-2 の施策指標についてコメントしたい。8-1-1 は効果的・効率

的な行財政運営の推進として、基金の割合や公債費比率を見ているかと思うが、広域連携をする、貯金や借金など適正な財政運営を進めるといった道筋があるのであれば、広域連携の施策指標が一つ必要なのではないか。今ある施策指標を減らすのか、追加するのかは分からないが、プロセスが施策指標に出ていない印象がある。

また、施策 8-1-2 は公共施設の最適化ということで、複合化・集約化を図ることでより最適な状況を作りたいということだが、これに対し、施策指標 8-1-2 は、建て替えや改修を行ったという件数であり、効率的に最適に行っている結果、アウトカムではなく、ただやりましたというアウトプットとなってしまう可能性がある。長寿命化や全体の複合化・集約化が求められている中で、果たして、8-1-2 で十分それらを酌み取れるのか疑問に感じた。既に検討した結果、これしかないのであれば仕方がないが、より最適なものがあるのであれば検討してもよいのではないか。

事務局：

施策に記載された内容からプロセスを経て、より成果が見える施策指標を据えた方がよいのではないかと御指摘かと思うが、御指摘いただいた2つは新たに変更した施策指標であるため、成果の見える施策指標へと変更できないか所管室課に伝え検討させていただきたい。

部会長：

あくまで吹田市全体を見るときに必要な観点ということでよいと思う。細かく見ていくためには個別計画の評価があるはずなので、そちらで見ていただければよい。施策指標として入れるのであればきちんと入れる、中途半端は止めようということかと思う。その辺りは所管室課と検討していただきたい。本日、答えを求めているわけではないため、また次回、御説明いただきたい。

#### 4. その他

事務局：

次回以降の審議会部会開催予定について事務連絡を行った。

以上

# 出席状況一覧

別紙

第1回吹田市総合計画審議会第3部会 令和5年(2023年)1月16日(月)午後6時 開催

(選出区分毎の五十音順・敬称略)

	号	区分	分野	所属・役職	氏名	出欠
1	1号	学識経験者	行財政 社会保障財政	甲南大学経済学部 教授	足立 泰美	出席
2	1号	学識経験者	行政経営	大阪大学大学院法学研究科 教授	北村 亘	出席
3	1号	学識経験者	教育	千里金蘭大学生生活科学部 教授	島 善信	出席
4	1号	学識経験者	DX	大和大学理工学部 教授	松浦 敏雄	出席
5	4号	関係行政機関		西宮市 政策局 政策総括室 政策推進課 課長	堀越 陽子	出席

選出区分の号は、吹田市総合計画審議会規則第3条第2号の各号による。

## 吹田市 出席者

事務局	今峰行政経営部長、企画財政室：伊藤室長、吉川参事、吉村参事、森岡主幹、清家主査、山本主任
	委託事業者